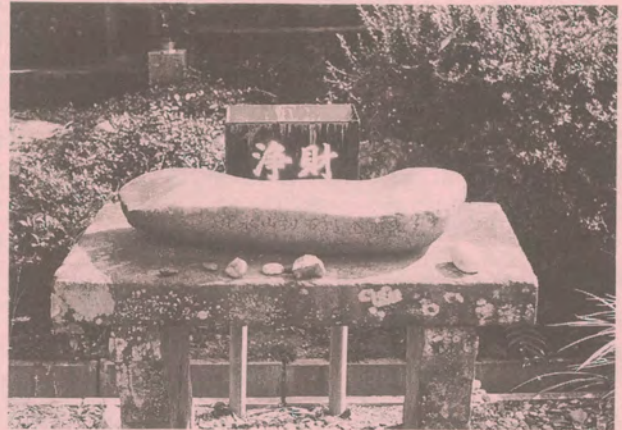


1996. 9. 30

楽器のある風景 —— 神を呼ぶ石 ——



- 上 初山宝林寺
- 左上 宇佐八幡神社
- 左 金刀比羅神社

写真はいずれも「金鳴石」と呼ばれる石です。天竜市の大谷にある宇佐八幡神社のものは、『大谷昔話 No. 9』によれば、はじめ橋桁として使われていましたが、内山真龍霊社を建立した折に、神社の境内に移したと言われます。浜北市の宮口にある金刀比羅神社のものは、境内の祓戸社にあります。長押の上部には和弓の金的記念の額がたくさん掲げられています。細江町の中川にある初山宝林寺のものは、石に『支那金鳴石初山永寶』と刻まれています。

岩石は三者とも天竜川水系の「輝緑岩」(きりょくがん)と言われ、金谷町の「小夜の中山」(さよのなかやま)のものとは違います。これらは握り拳よりやや小さめの石で叩いて音を出します。「カーン」という乾いた金属音とかなりの残響音が「しじま」を感じさせ、この石は珍しい音を出す石だ、つまり、めったにない石だという気持ちにさせます。金鳴石という名称も、こんなところからきているのでしょうか。金刀比羅神社と初山宝林寺の「金鳴石」は神社の大鈴や鰐口と同じような使われ方をしています。恐らく神様を呼ぶためでしょう。

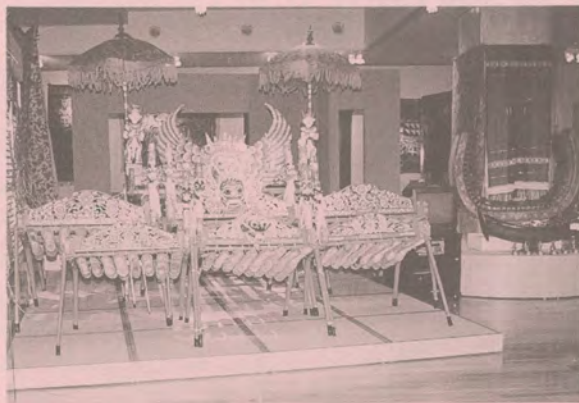
楽器学では、石や木などの材料をお互いに打ちつけて(発音体として)リズムをとったりする楽器をクラッパーと呼びます。日本の拍子木を考えていただければいいでしょう。石を加工して音階をとる文化は中国やポリネシアなどにもあります。石琴(リソフォン)などと呼ばれます。日本では、四国の讃岐地方の「サヌカイト」と呼ばれる石が非常に固くて叩くと金属音がするため、今では、剝片の形状により音階をとり楽器として使っています。(O. G)

## アジア・アフリカ展示室オープン

アジア・アフリカ展示室が9月28日(土)にオープンしました。世界全域の楽器を収集し展示公開して、人間の知恵と感性の歴史を考えることを目的とする浜松市楽器博物館は、1年半前の1995年4月9日にオープンしましたが、ヨーロッパと日本の楽器のみの展示でした。開館以来多数の入館者を迎え、楽器・音楽ファンのみならずとも、多くの方に、楽器の持つ造形の面白さや楽器に施された絵や彫刻の美しさ、また音を出すしくみの不思議さなどに感動していただきました。皆さんからは、「アジアやアフリカ、南アメリカなどの楽器はないのですか。展示されているといいのですが。」とのご意見をたくさんいただきました。ヨーロッパ・日本以外の楽器の展示については、館としてもできるだけ早く実現したいと思っておりましたが、ようやくある程度の数の楽器がそろい、修理や調査も一段落しましたので、公開されることになりました。

アジア・アフリカの楽器の特徴は、その形の美しさ、面白さはもちろんですが、何といても「人間の暮らしと密接な関係を持っていること」が最大の特徴でしょう。ヨーロッパの楽器は時代とともに芸術音楽のみに使用されることが第1の目的となりました。演奏者や時間や場所にも特に制限はありません。しかし、アジア・アフリカの楽器は、もちろん芸術音楽にも使用されますが、お祭り・葬式・結婚式・成人式などの儀式、呪術、人間や神との交信など、人間の暮らしに欠かせないものとなっていますし、楽器の形も信仰や尊敬の対象である神や動物などの形をしていたりと、ヨーロッパの楽器よりもはるかに多くのメッセージを私たちに送ってくれるのです。

展示品は世界最大の竹琴ジュゴック(インドネシア・バリ島)など約250点。皆さん、どうぞ楽器博物館アジア・アフリカ展示室においでください。すばらしい楽器たちがお待ちしております。



## 事業報告

### ○夏休みワークショップ「楽器をつくろう」平成8年8月1日(木)～11日(日)、8月20日(火)～30日(金)

夏休みに小学生以上を対象に「楽器をつくろう」というワークショップを開催しました。前半はたて笛、でんでん太鼓、せみの3点を、後半はゴピ・ヤントラ、へび使いの笛(プーンギ)、トントン太鼓の3点を作りました。

どれもどこの家庭にもある身近なものを使って作ることができる楽器ですが、参加者は一様にその音に感激していました。特に猛暑が続いたこの時期、せみは圧倒的な人気を得て、博物館の中はせみの大合唱でさらに暑さを増したのです。

### ○小展示「金管楽器とサクソフォン」平成8年7月30日(火)～9月1日(日)

展示内容はトランペットやホルンなどの金管楽器を、音の高さを変化させるしくみにポイントを置き、その変遷を考察するものでした。またサクソフォンをはじめ様々な金管楽器を発明したアドルフ・サクスが製作した楽器もあわせて展示しました。

特にサクソフォンに関心が集まったようで、サクスという人が発明したので、サクソフォンという名がついたことに驚いていました。

### ○レクチャーコンサート第9回「サクソフォンの世界」8月9日(金) 14:00～16:00 研修交流センター21音楽セミナー室

演奏とお話：赤松二郎(大阪音楽大学教授)さんとそのカルテット

楽器博物館所蔵のオリジナル・サクソフォンと現代のサクソフォンを使用してのレクチャーコンサート。赤松氏のたのしいお話をまじえてサクソフォン誕生から今日までの150年の歴史を楽しみました。オリジナル・サクソフォンの四重奏はおそらく日本初でしょう。「温かで奥の深い音色、手作りのウッディな音色(赤松氏談)」にサクソフォンの原点を発見できました。



## 敦煌壁画復元楽器展始まる

9月28日(出)より、特別展「敦煌壁画復元楽器展」が始まりました。この展示は、アジア・アフリカ展示室のオープンにともない、古代シルクロードの楽器もみなさんにご紹介しようと企画したものです。

中国敦煌研究院では、1980年代初めから、莫高窟を中心に、壁画に登場する楽器の調査を進め、そのうち主要なもの35種の復元に成功しました。日本でこの復元楽器を所蔵する伊丹アイフォニックホールより資料を提供していただき、この特別展が実現することとなりました。

敦煌といいますと、小説や映画、テレビ、観光旅行先としてみなさんにおなじみの地名です。また、学校で世界史を勉強しますと、「中国と西域の接点であるため、歴史的に重要なところである」と習ったのではないのでしょうか。

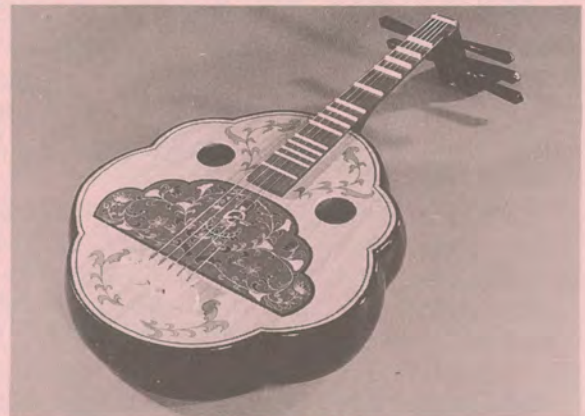
敦煌は、中国・甘粛省の北西部に位置し、莫高窟は、敦煌市街から車で約30分のところにあります。4世紀から14世紀にかけて造営され、壁面には、大乘経典に基づいて仏教物語を絵画化したものなどが、描かれています。ここに、数多くの楽器が登場するのです。

それでは壁画に登場するいくつかの楽器を紹介し、展示のご案内とします。

琵琶 - 莫高窟壁画には50種以上の形態の琵琶が、700例近く登場するそうです。琵琶は、ペルシアの弦楽器「ウード」の祖先から生まれたといわれます。日本へは、奈良時代に中国から伝わっています。まさに、古代シルクロードの文化交流の証を目にする思いです。

腰鼓 - インド起源といわれます。胴の中央がくびれた太鼓です。日本でも、こうした形態の太鼓は「大鼓」・「小鼓」として能などで用いられています。どちらも日本の伝統的な楽器ですが、その起源は外国なのです。

他にもいろいろな復元楽器、計36点が、壁画写真とともに展示されています。会場に足を運んでみて下さい。



花辺五弦阮

## 収蔵資料&展示コーナーの紹介

### ガムラン

インドネシア共和国は、赤道をはさんで東西に広がるおよそ1万3千の島々から成り立っています。日本からは飛行機で7時間程の距離にあり、ここ数年来、行ってみたい観光地のベストテンの常連となっています。「劇場国家」とも呼ばれるインドネシアの文化といえば、華やかな舞踊や影絵芝居を思い起こしますが、それらを総合芸術として盛り上げているのが、インドネシアを象徴する音楽「ガムラン」です。「ガムラン」という言葉は、インドネシアの音楽だけでなく、合奏の形およびそれに使われる楽器群を呼ぶときにも使われます。「ガムラン」(gamelan)の「ガムル」(gamel)には、「たたく」という意味があり、使われる楽器が打楽器を中心としていることから、この名前が使われているといわれています。主な楽器を見ると、旋律を担当するグンデル、サロン、ガンサ(メタロフォンの仲間)、旋律を装飾するボナン、レヨン、トロンポン(ゴング・チャイムの仲間)、旋律の節目にたたかれてフレーズを作り出すクンプル、クノン(ゴングの仲間)、曲のリズムを保つクンダン(両面太鼓)等があり、時によってこれに旋律を担当するスリン(笛の仲間)、ルバブ(弦楽器の仲間)、歌が加えられます。

ガムランは地域別にジャワ様式、バリ様式、スダダ様式の3つに分けられ、楽器の名称、構造、編成が多少異なります。(展示品はバリ・ガムラン)

フランスの作曲家ドビュッシーも、ガムランの影響を受けたといわれていますが、近年には、欧米や日本の大学などで講座が設けられるようになるなど、全世界で多くの注目を集めるようになりました。

浜松市楽器博物館では、先日オープンしたアジア・アフリカ展示室に入ってすぐ右側にガムランを展示しています。(M・M)



# お知らせ

新しく寄贈された資料を紹介します

楽器を寄贈して下さった方々(順不同, 敬称略)

寄贈楽器	氏名	住所
ティンホイッスル 他2点	山城 信二	東京都杉並区
パンパイプ 他21点	松本 吉治	浜松市大久保町
ラバープ 他1点	中山 正	群馬県太田市
リード・オルガン 他1点	黒川 忍	愛知県名古屋市
タンブール	藤田 宗一	浜松市新橋町
ウクレレ 他1点	平野 静雄	浜松市利町
三味線 他	清水 敬之	横浜市港北区

この他、多数の方から関連資料をご寄贈いただきました。誠にありがとうございました。

## これからの事業スケジュール

平成8年10月5日(土) 14:30 研修交流センター(大人1000円、小人500円)

第10回レクチャーコンサート「ジュゴック」

インドネシア・バリに伝わる竹筒琴ジュゴックを紹介します。

平成8年10月26日(土) 14:00~16:00 研修交流センター(申込制)

講座 楽器の東西交流史「東の音・西の音 — シルクロードのリュート属」講師: 茂手木潔子(上越教育大学教授)

平成8年11月23日(土) 14:00~16:00 研修交流センター(申込制)

講座 楽器の東西交流史「つづみ・その形とルーツ」講師: 越智恵(太鼓館室長)

平成8年12月1日(土) 14:30 研修交流センター(大人1000円、小人500円)

第11回レクチャーコンサート「ルーマニアの音楽と楽器」

ルーマニアの民族アンサンブルを紹介します。

平成8年12月7日(土) 14:00~16:00 研修交流センター(申込制)

講座 楽器の東西交流史「チャルメラ考」講師: 西岡信雄(大阪音楽大学教授)

## 6月~8月までのあゆみ

平成8年

- 6/8 セミナー「楽器の中の聖と俗」第7回「異文化接触が創り出す芸能」開催
- 6/12 浜松市立東部中学校の職場体験の受入
- 6/20 東海地区博物館連絡協議会総会出席
- 7/1 市制記念日に伴う無料開館
- 7/13 セミナー「楽器の中の聖と俗」第8回「大道芸の音と技」開催  
「遠州大念仏」調査
- 7/30 小展示「金管楽器とサクソフォーン」開催(~9/1)  
博物館実習の受入(~8/10)
- 8/1 夏休みワークショップ「楽器をつくろう」開催(~8/11)  
講座「学校教育・社会教育のための博物館利用法」開催(~8/2)
- 8/9 第9回レクチャーコンサート「サクソフォーンの世界」開催
- 8/20 夏休みワークショップ「楽器をつくろう」開催(~8/30)
- 8/21 県民の日に伴う無料開館
- 8/30 浜松市楽器博物館資料収集選定委員会開催

6月~8月の観覧者数

大人	個人	17,981
	団体	3,005
中人	個人	574
	団体	224
小人	個人	4,790
	団体	1,393
幼児		1,508
合計		29,475

## 利用案内

開館時間: 火曜日~日曜日 午前9:30~午後5:00

休館日: 月曜日(祝日にあたる時は開館)、祝日の翌日、年末年始、  
その他資料整備等のために定める日

- 祝日前後の開館日については、変更することがございます  
ので当館にご確認下さい。 -

観覧料:	個人	団体(20人以上)	団体(80人以上)
大人(大学生以上)	400円	320円	240円
中人(高校生)	200円	160円	120円
小人(小・中学生)	100円	80円	60円

※館内には、貴重品以外のお荷物は持ち込みできません。

浜松市楽器博物館だより

1996年9月30日発行

No.5

編集 浜松市楽器博物館

〒430 静岡県浜松市板屋町108-1

TEL 053-451-1128

FAX 053-451-1129

印刷 株式会社 シバプリント